



untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉青年経営者会通信

contents

福祉への就業を考える ―福祉職を目指す学生の動向―	・・・・・・ 1・2・3・4面
研究委員会の紹介・活動報告	・・・・・・ 5面
施設紹介 社会福祉法人 素心会（大磯町）	・・・・・・ 6面
活動報告	・・・・・・ 7・8面

な
い
し
を
る
材
：
ン
員)

榎本校長：**榎本** 登成（となり）副校長：**登成** 石岡主任：**石岡** と表記させていただきます。聞き手：田代・真壁

田代：今日は、お忙しい中を有難うございます。今日は、福祉業界に多くの人材を排出し続けている町田福祉保育専門学校の榎本校長先生に、昨今の福祉業界全体の人材不足や福祉離れなどの現状から、福祉の現場を預かる我々が何をすべきか、どうすれば学生達が福祉に魅力を感じてもらえるかなどのヒントをご教示いただければと思い、この様な機会を作っていただきました。まずは、近年の学生の特徴について教えてください。



町田福祉保育専門学校 榎本校長

榎本：もう開校して22年になりますが、最近（学生の）質が非常に良くなっています。全体の人数としては減少傾向にはありますが、特に介護職を目指す人は、意識が高い人が大変多い。開校当初は、学生の意識は今と比べ物にならないほど低かった。当時は、例えば講師が注意すると、ボイコットしてしまう学生などもいたりして、授業にならず講師の先生が怒って帰ってしまったこともありました。今でも、本当に講師の先生に申し訳ないと思っています。その様な時代もありましたが、年月を経たことで質が良くなっている。意識が非常に高くなった。それに比べて保育を目指す学生は、まだまだ甘いですね。

始業時間にまともに来ない学生がいるなど、意識が低い学生もいる。

田代：保育の方は、開校して何年ぐらいになりますか。

榎本：保育士養成は10年前から、通信課程を含め3年制で行っております。介護だ保育だと区別している訳ではありませんが、とにかく色が違います。

登成：介護の授業というものは大雑把に言って、答え・確立された教育方法がないんです。実際にやってみて、体験すると学生の意識や興味が変わってきます。

田代：石岡主任は、卒業生でいらっしゃいますよね。一度介護の現場に出られ、学校に職員として戻ってこられました。在学中に比べて現在の学生は如何思われますか。

石岡：校長が申し上げたとおり、本校に入学する時点で、やはり意識が違います。昔は、親に言われて入学する生徒が多かった。私も入学する時点では福祉をやるとか介護をやるとか明確な意識を持たず入学しましたが、現場に出て楽しさを知り、今に繋がっています。今は、具体的なイメージを持って介護を目指して入学してくる学生が多いので、そういう意味で意識が高いと思います。

登成：中学校での職場体験も良い経験になっていると思います。その他にも、入院の経験や、身内が福祉施設を利用している、更には、自分の親が福祉職に就いているなど、福祉の現場に接する経験が多い。昔は中々周囲に関係者がいませんでした。

榎本：介護事業は、少子高齢化という時代の中、数少ない成長分野で国も力を入れています。その様な背景があり、最近では質が良くなっている様に思います。やはり、国が力を入れてくれるのは大きい。



登成副校長（中）と石岡主任（右）

田代：保育の方は如何でしょうか。

榎本：今、幼保一体ばかり言われているが、大切なのは、「どう子どもを育てるか」です。監督官庁で綱引きを続けるなど論外で、もっと国が責任をもって、総てでまとまって子育てを行うべきだと思います。労働人口が減り、働く女性が強く求められる時代、国を担っていく時代です。そのためには、子どもを預けるしかない。親に代わり、子どもを健全に育成できる人材が必要です。

田代：今の時代、機会均等法などと言われる通り、男女間で待遇・給与が一律一緒とすることが求められています。女性の待遇が上がる半面、男性の伸び代（※ここでは待遇向上の意）がなくなり、家計が成り立たない状況も出てきていると思われま。その結果、何処かに弊害が生まれたり、社会保障等のセーフティネットにしても今ひとつ機能しきれていないという現状もありますね。

登成：先が見えないですね、今のシステムは。何処に何を求めて良いのか解らず、不安が解消されずに「それなら結婚しませんよ、年金払いませんよ」となってしまいます。安心と言うものが見えると色々変わってくるように思います。国家戦略として、解りやすい具体的な形を示してもらふ必要があると思います。

田代：学生の中で福祉系の人気がある職種。例えば昔ならば、社協職員や相談業務だったと思いますが、今の時代でもやはりそのあたりの人気が高いのですか。

榎本：今は違います。今は現場の方ですね。第一、今は、優秀な生徒ほど最前線の福祉現場を選んでいきます。涙が出るほど嬉しい。高い志をもって、自ら現場を望む。今の学生が後に続いてくれれば良いと思っています。10年前と様相が大分違ってきました。

石岡：一時期、優秀な学生は大学などに編入する事例が多かった。編入後に現場に進む学生は少なく、そのまま

違う分野に流れていってしまう事の方が多かったようです。

1年生の現場実習等で勉強し現場を経験してくると、意欲を持って帰ってくる学生もいる一方、特養や老健などの大変なところよりも、デイサービスやグループホーム等の比較的ゆったり仕事が来る職場を好む傾向が目立ちます。特養等で現場で揉まれると学生の感想は「きつかった」で、そのイメージばかりが残ってしまう。2年生になるとデイサービスなどの就職先が少ないということもあり、最後の実習（就職実習）の頃によりやく周囲の状況が見えてきて、特養等の施設を希望する学生が多くなる。現在は一般企業へ就職する学生は殆どいません。

真壁：景気が良い時期には、学生が一般企業に流れる傾向があるという話は他の学校ではよく伺いますが、貴校の保育の学生では、一般企業に行かれる方はどの位いらっしゃいますか。

榎本：保育の方も殆どいません。これは自慢できることだと思います。福祉職を志すために何と言っても大事なことは現場での実習・経験です。実習を受け入れて頂ける事は大変有り難いことですが、施設では「学生を育てる」という意識を持って受け入れて頂けると私どもも助かります。

真壁：そうですね。実習生どころか就職した職員でも、少しでもつらいこと、嫌なことがあると責任転嫁して逃げてしまう傾向があります。言葉かけひとつとっても、さじ加減が難しいです。

登成：学生にとっては、自分のための注意も指導も全て「怒られた」になってしまうこともありますね。

榎本：現場実習へ出すのは大変で、指導が追いつかず、施設側にご迷惑をかけるケースも出てきてしまいます。以前、学生が事前打ち合わせの日を施設の担当者と調整する際、「土日じゃないと行けない」と申し立ててしまいました。学校へ申請をすれば平日の打合せが出来る（授業免除）のですが、面倒だからとの返事。もちろん、実習先からはクレームが入り、結局受け入れてくれなかった苦い思い出もあります。

田代：私どもの施設にくる実習生からよく聞くことですが、昔は学生が「あそこに実習へ行きたい」と言うと、「あそこは恐いから」と言う先生もいたと聞きますが、今の学生も情報交換等をしていますよね。

石岡：情報交換はあります。しかし今は、学生同士の話が主で、怒られた体験・つらい体験などが先行してしまい、希望者がいなくなる施設もでてきてしまいます。逆にクラスによっては希望者が集まり過ぎてしまう施設がでるなどの現象もありますが、怒られたからといって悪い施設ではない、むしろ良い施設だということは充分承知しています。

田代：その中で最終的に就職先の人気のバロメータ、例えば施設がきれいだから、豪華だからなどの基準はあるのですか。

榎本：先日、新規オープンした特養に招待され竣工式に参加したのですが、素晴らしい建物でびっくりしたと同時に、逆にあれで経営できるのかと疑問に思いました。

田代：過剰に豪華になっているところは、ビジュアルで人気を集めようという狙いがあるのでしょうか。施設側からも情報をネットを通じて発信している場合もありますが、特定のサイトでは福祉施設の悪口なども書かれているなど、情報が交錯する時代です。学生は、ネットなどのツールを利用して様々な情報を集めていると思いますが、就職先として考える際、学生の中で一番重要に思われている判断基準は何でしょうか。

石岡：やはり先ほどでました「施設が綺麗」という要素もありますが、それよりも一番重視されるのは自宅から「近い」ことです。昔は、通勤に1時間は許容範囲でしたが、今では遠い部類に入ります。片道30分で「まあまあ何とかなるか」の



閑静な住宅街に位置する本校舎

様です。その次に「綺麗」「設備」で、その下に「給料」「勤務時間」となっています。実習についても、昔は行ってみたい施設で選んでいましたが、今は近場だから選ぶという傾向があります。

登成：以前の一番は待遇でしたけどね。

真壁：保育分野においては、横浜市を中心に都市圏で施設が乱立し、人材が集まりづらい状況に拍車がかかっています。政令市などにおいて、独自の補助金が出る地域では人を集めるために初任給をあげる傾向にあります。他の保育士養成校の先生からは、学生はまず給料を見ますよ、と話されました。

榎本：保育所は人が多い地域、いわば市街地に立地していますが、特養などは住宅地から少し離れた場所に立地している。結果、介護職に就労するものにとっては、より通勤しやすさを求める傾向になるのではと思います。

田代：最後に我々福祉施設経営者に期待する事や、この様に生徒を温かく迎えて欲しい、支えて欲しいなどの希望等ありましたらひと言お願いします。

榎本：社会福祉事業ですから、福祉の心を優先して教えて貰いたい。ただ、施設経営者の話を伺うと、自分の時間がないくらい大変な仕事だという思いを強くします。我々にとっては大変有り難く、意義のある仕事をされていると感じます。要望を言うとするのであれば、介護職は男性が多く勤めています、保育所は少ない。本校でも男子学生が多くなってきているが、男性が将来に希望を持って働けるように待遇を含め、もっと男性に光が当たるようにしてもらえると嬉しい。男性を生かせる職場にするために、もっと国へ働きかけて欲しいと思います。期待しておりますので、がんばって下さい。

登成：長く勤められる様に、就業者にとって先が見える、励みになる道筋を示していただきたいと思います。その中でコツコツと（新人・学生を）見て頂ければと思っています。

石岡：卒業し就職しても学生は一人前には出来上がっていません。現場でご苦勞をお掛けしますが、今の時代、昔以上に育てて頂くことが重要になってきていると思います。「お願いします」の一言です。

田代：今日は、貴重なお時間をいただきまして誠に有難うございます。保育関係者からすると最後の校長先生のお言葉は、非常に耳が痛い話であったと思いますが、素晴らしいお話しが聞けました。是非、今後の参考にさせて頂きたいと思います。本日はどうも有り難うございました。

の先生方
分野で全
目指す学
に驚きま
る」との
営者が先
積極的に
保に繋が
〜・職場・
談を参考
に実を結



介護保険部会

介護保険部会は、各種別部会の高齢分野に関して勉強する部会です。介護保険制度のみならず、我々が関わる高齢者福祉全般にわたり学んでいける活動を展開しております。

過去の活動と致しましては「介護保険と高齢者福祉の今後の展望」と題し、神奈川県立保健福祉大学の河幹夫教授に講義していただきました。昨年度は「介護職員処遇改善交付金」制度創設に伴ない勉強会を開催し、グループディスカッションによる活発な意見交換により、その内容の理解を深め準備に役立てました。また、宿泊研修で名古屋へ施設見学及び工場見学へ行きました。施設見学では、認知症高齢者に効果的であるブライトケアの導入や床全面にタイルカーペットを敷くことによる骨折予防等、先駆的な取り組みを学び、工場見学では、日頃使用している紙おむつの製造過程や品質改善、品質管理等について知識を得ました。

このように単一のテーマではなく幅広い活動を通して、多くの皆様と共に学び、共感し、人間としても成長できる、そのように活用していただける場を提供していきたいと考えております。青年らしく活動しましょう。皆様の参加を心よりお待ちしております。

部会長 碓井義彦（育成会）



工場視察時のヒトコマ

保育部会

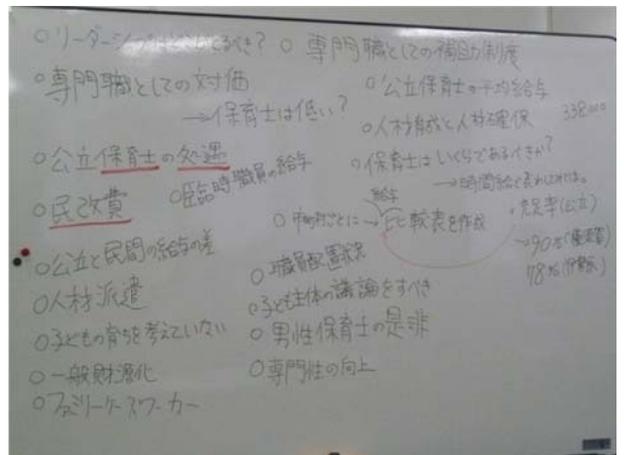


保育部会は、青年経営者会の会員のみならず、神奈川県保育会「民間保育所経営問題特別委員会」のメンバーと合同で活動をしています。「変化していく保育制度に惑わされないよう、団体の枠に捉われず、現状に危機感を抱く経営者を広く集め、情報交換・勉強をしていこう」という前委員長の考えで実現に至ったグループです。定期的にメンバーが集い、様々なテーマで勉強会を開催しています。

行政の担当者を招いて補助金のあり方や将来に向けての展望を話し合ったり、分野ごとに研究した結果を発表したり、中央行政の保育に係る最新の情報の報告を受けたりと、メンバー個々が自分で考え行動することで、意識の向上を図るとともに施設経営の有益な知識を得ています。活動を通してそれぞれが将来の自らの施設のあり方を思い描いております。

冒頭述べましたとおり、勉強会の参加資格は、会の趣旨に賛同していただくことだけです。青年だからできること、経営者だからやらなくてはならないことを、私どもと一緒に実行していきましょう！

委員長 山本 昇（山栄会）



テーマは幅広い

障害研究委員会

障害者自立支援法の施行後、事業者に対する激変緩和措置、特別対策の実施、経過措置の延長、通所事業の報酬単価の実質約4%の増額、旧法入所施設の本体報酬の3.9単位の増額、その後に居宅介護を中心に全体で約5.1%の増額改定がなされるなど、施行当初から現在に至るまで事業者に対する報酬の増額が次々と実施される事態となるなど、事業所の存続を左右するほどの大幅な減収を予見させた障害者自立支援法は抜本的な見直しが果たされる結果となった。但し、授産施設などは、現在も不安は解消されていない。

利用者については、実質的に応益負担から応能負担へと見直された。また、政府が設置した障がい者制度改革推進会議の過半数は、障害者またはその家族で構成され、議事の進行についても従来の厚労省の主導から大きく転換が図られた。

政権交代に伴い、遅くとも平成25年8月までには新法を廃止し、障害者総合福祉サービス法（仮称）が施行される見通しとなっている。廃止が決まった新法ではあるが、国の財政事情を考えれば、事業者を取り巻く経営環境の変化が今後も続くことは容易に想像ができる。

このような経営環境の中で、私たちは利用者との生活に一喜一憂しながら、日々頑張っております。障害研究委員会は、概ね2ヶ月に1回開催し、各委員の施設を訪問し、施設の事業の進捗や予算・決算、時事問題などについて忌憚のない意見交換を行っております。

青年経営者会の名に相応しく、怯まず弛まず青年の主張？などしていただけたら幸いです。

委員長 関水貴浩（福慶会）



今回ご紹介する施設は、当会の第3代目会長 萩原勝己氏が常務理事兼素心デイセンターと地域支援センターそしんの所長を勤められている社会福祉法人 素心会です。場所は大磯町の小田原厚木道路大磯インターチェンジのすぐ近くに位置し、本体施設の真新しい外観の素心学院は幹線道路沿いの自然豊かな緑の山間の中に映えて見えました。（福）素心会の創設は昭和30年に遡り、当時、葉山町で知的障害児の入所施設として始まりました。その後、昭和39年に現在の大磯町に移転し昭和41年に社会福祉法人の認可を受け、今ではたくさんの事業展開



素心学院（平成17年2月建替）

をしています。この背景として、大磯町は人口33,000人弱の町で、障害福祉サービスを提供する事業所が少ないため、知的障害に留まらず様々な障害や障害児（未就学）から高齢の障害者にいたる幅広い年齢、医療的なニーズ等が寄せられるとのことでした。

今回の見学では、主に日中活動をされる利用者の皆さまの様子を拝見させていただきましたが、高齢の障害者への支援や若年層の方々の活動を見ると、素心会が地域に対して果たす役割は大きいと感じました。しかし、その大きく重い役割に対しそれが大変な事としての負担ではなく、利用者一人ひとりの個性や状況を尊重することの方針がしっかりとあることで、職員の意識も高く



萩原常務理事（左）と、武藤委員（中）水島委員



保て、サービスを受ける利用者の皆様も誰もが自分らしく、自然体で日常生活が送れているように感じられました。

現在、萩原氏は、社会福祉法人が地域の中で協同することでの様々な効果を狙い、大磯町内の5つの社会福祉法人に社会福祉協議会の地域福祉活動計画への協力、法人連携による人材育成、サービス水準や安全基準の標準化などを提案し、賛同を呼びかけています。今後の進展がたいへん興味深く期待できそうです。

素心デイセンター



県
で

総会当日の会員数 95 名、出席 36 名・委任状 26 名 計 62 名をもって総会が成立し、議長に山室 淳氏（一燈会）が選出され、議事が進行された。

第 1 号議案 平成 21 年度事業報告（案）について

（田代鉄也氏[喜寿福祉会]より説明）

第 2 号議案 平成 21 年度決算報告（案）について

（武藤祐生氏[愛の森]より説明）



各案について、議場に諮り、予算の使途などの質問を受けた後、賛成多数をもって全ての議事を終了。

その後、平成 22 年 3 月末日をもって本会を卒業された会員の方々に、赤間源太郎会長（相模福祉村）より感謝状が贈呈された。また、総務広報委員長の真壁洋道氏（真幸会）より新入会員の紹介が行われた。

21 年度卒業者は次のとおり。

会員名	所属	種別
相澤 史人	雄飛会	高齢
内山 健二	横浜長寿会	高齢
漆原 恵利子	漆原清和会	高齢
小泉 隆一郎	泉心会	高齢
鈴木 啓正	たちばな会	高齢
萩原 敬三	大原福祉会	児童



ご指導ありがとうございました

研修

法人運営におけるキーワードである人財・経営・メンタルヘルスを探求する上で重要とな心を掌る「脳」に注目し理解することで、更なる飛躍のきっかけになればとの願いから、今回の研修を開催したとの研修委員会からの主旨説明があり、研修会が始まりました。



澤口俊之氏

私ども社会福祉法人は住み慣れた地域で個人が自立した生活を実施できるように支援することが活動目的であり、人間らしさを形成する脳の一部である「前頭連合野」がいかに重要な役割を担っているかという話を中心に講演いただきました。

脳機能の中で特に注目されるのが前頭連合野であり、未来志向性・理性協調性、主体性等の重要な役割を担っている。その機能に障害が発生することで人間形成能力の欠如が発生し、幼少期における発達障害や高齢期における認知症という形で集団生活に支障が発生する。

澤口先生は、それを解明する中で、IQ（知能指数）に代わる新たな指標である「HQ」（人間らしさの知能指標）を取り上げ、HQが高い程、人間的幸福度が高くなり、個人が充実した生活を行うことができるかということを実践データと照らし合わせ説明をされました。

その中で特に、HQを向上させるためには幼少期における

祖母との共同生活が、双方にとっての相乗効果（祖母効果）を得る確率が高いという実践データに注目しました。これは、現在福祉業界で注目されている次世代交流の効果を理論付けるものであることから、福祉業界として更に注目、探求し行動することが、私たち青年経営者に求められることであると再確認するとともに、一人の人間としてHQを伸ばして社会に還元することが、人間としての使命の一つであると強く感じさせていただきました。



)

○本年度も新入会員をお迎えしましたが、次号ご報告させていただきます。

○untitled No.33にて新入会員の紹介を行いました。名前に誤りがございました。深くお詫び申し上げます。

MatthewWilliamKarasch と表記されておりましたが、正しくは MatthewWilliamKarasch(湘南育成園)です。

らられてい
まわってい
に迫って
F当」をも

ミ

議 会
当